

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸ノ上 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

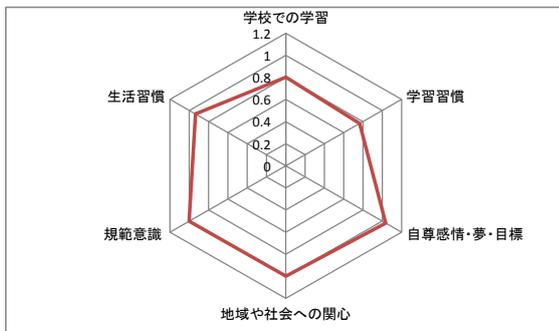
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	領域によって正答率が大きく変化するため、得意領域と苦手領域の差が激しいことがうかがえる。また、無解答率が高く、問題そのものへの理解が不足している傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文章の内容を正確にとらえ、文章の中で適切に使うことができる	
	努力が必要な問題	伝統的な言語文化に関する問題の中でも基礎的事項に関する問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	国語Aで全国平均を下回った領域の問題が、国語Bでは上回るなど、傾向にばらつきがあった。無解答率が高く、ここでも問題そのものへの理解が不足している傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	話の展開に注意して、必要に応じて質問する 全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率が低く、特に関数の領域に関して低い傾向にある。数量や図形等についての言葉の知識や理解があれば解答できる問題もあまり正答できていなかった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数直線上に示された整数を読み取る 線対称・点対称の図形	
	努力が必要な問題	数量の大小関係を不等式に表わす 比例のグラフからx、yの変域を求める 一次関数のyの増加量を求める	
数学B	全体的な傾向や特徴など	図形や資料の活用に関する問題の正答率が低い。全国の正答率も低い難問については、正答率に大きな差はない。記述式の問題に関して正答率が低く、無回答率も多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	グラフから情報を読み取り、事象を数学的に解釈する 与えられた情報から必要な情報を選択的に確に処理する	
	努力が必要な問題	事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する 条件を変えた場合に証明の一部を書き直す	
理科	全体的な傾向や特徴など	実験の技能・知識理解については全国平均を上回ったが、科学的な思考・表現については若干下回った。また、分野別では物理分野は正答率が高かったが、化学・生物分野は若干低かった。地学分野では知識の活用問題を苦手とする傾向がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	観察や実験の技能 自然事象についての知識・理解	
	努力が必要な問題	記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢や希望を持っている生徒や、自分にはよいところがあるなど、自尊心が高い生徒が全国平均よりも多い。 ○学校の決まりを守ったり、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりなど、規範意識の高い生徒が多い。 ○自分で計画を立てて学習したり、授業中に積極的に自分の意見を発表したり、話し合ったりすることが不十分である。 ○朝食を毎日食べていない生徒の割合が全国平均よりも多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○学力定着サポートシステムの活用により、学習定着度を分析し、個に応じた基礎学力の定着をに取り組む。 ○放課後の補充学習や、宿題プリントを中心とした家庭学習、課題の提出を徹底する取組を継続する。 ○説明文や長文問題、資料を活用する問題に慣れさせ、読解力や分析力を身に付ける授業に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○食育指導等を通して、食の大切さ、特に充実した学校生活を送る上での「朝食の重要性」について啓発する。 ○学年が上がるとともに、時間、内容ともに効果的な家庭での自主学習習慣を身に付けさせる。 ○学校通信、学年通信、懇談会等で基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図る。
--